

# 風土記の丘の花だより<sup>123</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2022年2月26日)

来週はもう3月ですね。何だかんだと言ってるうちに、もう春です。ウメも紅白がやっと咲きそろいました。アセビは少しずつですが咲き始めています。サンシュユもそろそろでしょうか。もう、足元には春を待ちきれない草花が咲き始めています。



うす水色の小さな花はハナイバナです。まだ花数は少ないですが、茎の先の方に少し咲いています。下のキュウリグサに似ていないことはありませんが、葉が少し縮れた感じなので、見分けられます。これはハクモクレンやコブシが咲く花木園の北の端で見つけましたが、探せばどこでも見付きりそうな花です。この季節だからこそ、見つけたら嬉しいのです。



確かに色も大きさもよく似ているこの花はキュウリグサです。どちらもムラサキ科の植物です。成長すると、ハナイバナは茎に付く葉のわきに花を付けますが、キュウリグサは花茎を伸ばしてたくさんの花を付け、先がクルッと巻いているので、慣れれば区別は簡単です。



このコハコベもそうです。春を待ちわびる今だからこそです。もう少しすれば盛り上がるほどに咲くごくごく普通の草花です。ハコベの仲間は、古くはハコベラと呼ばれ、春の七草でもその名前と呼ばれます。子どものころ、飼っていたニワトリにやるのに、しょっちゅう摘みに行っていました。同じような思い出のある方も少なくないのではないのでしょうか。



ヒメオドリコソウも少しずつ咲き始めています。かわいい名前のこの草はシソ科の外来植物です。花はピンク色で小さくて余り目立ちませんが、先の方の葉が色づいていて、そのあたり全体が花のように見えます。この季節、他にも春を待ちきれない花がまだまだたくさん咲いています。先日、風土記の丘周辺を歩いてみると、ホトケノザやオオイヌノフグリが満開でした。春が待ち遠しいですね。 松下